

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-140766

(43)公開日 平成8年(1996)6月4日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 4 7 B 77/16

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平6-286408

(22)出願日 平成6年(1994)11月21日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 前田 雅代

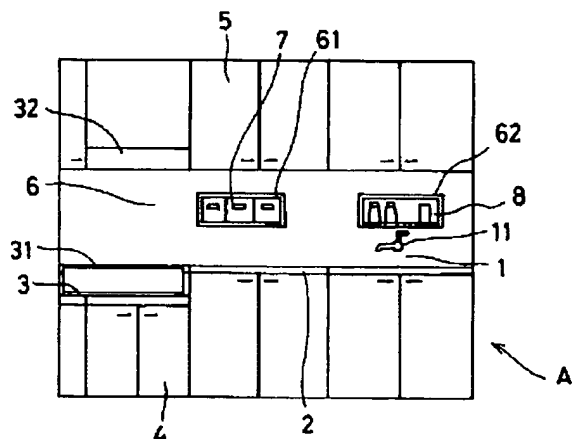
茨城県つくば市和台32 積水化学工業株式
会社内

(54)【発明の名称】 調味料容器収納具の取付構造

(57)【要約】

【構成】 厨房家具Aを壁に向かって取り付け、この厨房家具Aの上方の壁6に穴61、62を設け、この穴61、62に調味料容器収納具7、8を、前面を壁面とほぼ同じにして、取り付けした調味料容器収納具の取付構造。

【効果】 調理中に一寸手を伸ばすだけで調味料容器7、8を取り出すことができ便利である。又、調理しているときに、手や調理器具が壁面まで届かないから、前面がこの壁面とほぼ同じ調味料容器収納具7、8に届かず、従って、調味料収納具7、8に手や調理器具が触れて調味料容器が落下することがないので安心して調理できる。又、誤って、触れても壁に強固に固定されているから調味料容器収納具7、8が振動しない。従って、調味料容器が落下しない。又、壁が有効利用できるので狭い台所が広く使用でき便利である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 厨房家具が壁に向かって取り付けられ、この厨房家具の上方の壁に穴が設けられ、この穴に調味料容器収納具が、前面を壁面とほぼ同じにして、取り付けられていることを特徴とする調味料容器収納具の取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は調理に度々使用する醤油、砂糖、香辛料等の調味料が入っている調味料容器を収納する調味料容器収納具の取付構造に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、流し台、調理台、ガス台等の厨房家具は、実公平2-26352号公報に記載あるように、テーブルの上にシンク、調理設備、ガスレンジ等を設け、テーブルの下方に収納部を設けたものであった。又、調理家具の上方に吊り戸棚を設けたものもある。そして、この収納部や吊り戸棚の中に調味料容器等を収納していた。又、実開昭63-181337号公報に記載あるように、吊り戸棚の下方に戸棚を設け、この戸棚の中に調味料容器等を収納することも知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、前者公報記載のように、テーブルの下方に設けた収納部や吊り戸棚等に調味料容器を入れていると、調理の度に収納部や戸棚から調味料容器を取り出して使用する必要があるのが不便であった。又、後者公報記載のように、吊り戸棚の下方に戸棚を設けたものは、柱や壁に直接固定されていないから、この戸棚の安定感が悪く、しかも、この吊り戸棚は手や調理器具が触れ易い場所であるから、調理しているときに、手や調理器具が触れたりして戸棚が振動し、調味料容器が倒れたり落下する危険がある。

【0004】特に、ガスレンジを使用しているときや、熱い鍋等を持っている場合に調味料容器を落下させると、慌ててガスレンジの上に手が行って火傷をしたり、鍋等を落とす危険がある。そこで、本発明の目的は、容器収納具に手や調理器具が触れ難く、万一触れても振動せず、しかも、調味料収納容器が取り出し易い調味料容器収納具の取付構造を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は上記目的を達成するためになしたものであって、厨房家具が壁に向かって取り付けられ、この厨房家具の上方の壁に穴が設けられ、この穴に調味料容器収納具が、前面を壁面とほぼ同じにして、取り付けられているものである。本発明において、厨房家具とは、流し台、調理台、ガステーブル等の調理に必要な家具をいう。本発明に使用する調味料容器収納具は、開口したままの状態でもよいし、調味料容器収納具の前面にスライド、開き戸等の蓋が設けられていてもよい。

【0006】

【作用】本発明調味料容器収納具の取付構造は、厨房家具の上方の壁に穴が設けられ、この穴に調味料容器収納具が取り付けられているから、流し台、調理台、ガステーブル等の厨房家具を使用しているときに、調味料が必要になると、一寸手を伸ばして、調理家具の上方の穴に取り付けられている調味料容器収納具から調味料容器を取り出し、この調味料容器の中の調味料を使用して調理できる。このように一寸手を伸ばせば届く位置に調味料容器収納具があるから便利である。

【0007】又、この調味料容器収納具は、前面が壁面とほぼ同じ平面上に取り付けられているから、調理するときに、通常、手や調理器具が調味料容器収納具まで届くことがない。従って、調味料容器収納具に手や調理器具が触れて調味料容器が落下することがない。又、この調味料容器収納具は壁に設けられた穴に取り付けられているから、強固に固定されていて、誤って調味料容器収納具に手や調理器具が触れても振動しない。従って、この調味料容器収納具の中の調味料容器が倒れたり落下することがない。

【0008】

【実施例】次に、本発明の実施例を説明する。図1～図5は本発明の一実施例を示すもので、図1は調味料容器収納具を取り付けた台所の壁の正面図、図2は引出し式調味料容器収納具の斜視図、図3は図2の引出し式調味料容器収納具を壁に取り付けた状態を示す斜視図、図4は開放型調味料容器収納具の斜視図、図5は図4の開放型調味料容器収納具を壁に取り付けた状態を示す斜視図である。

【0009】図1～図5において、Aは厨房家具であり、この厨房家具Aは、流し台1、調理台2、ガスレンジ台3、収納部4とが連結されたものである。流し台1には図示していないシンクが設けられ、このシンクの上に水栓11が設けられている。ガスレンジ台3の上にはガスレンジ31が設けられ、上方には換気扇32が設けられている。収納部4は流し台1、調理台2、ガスレンジ台3のテーブルの下方に設けられている。

【0010】5は天井と壁とに取り付けられた吊り戸棚である。6は厨房家具Aと吊り戸棚5との間の台所の壁であり、この壁6には穴61、62が設けられていて、この2個の穴61、62の中にそれぞれ引出し式調味料容器収納具7と開放型調味料容器収納具8とが取り付けられている。引出し式調味料容器収納具7は、図2に示すように、枠71の中に引出し72が3個設けられたものであり、この引出し式調味料容器収納具7は、図1および図3に示すように、壁6に設けられた穴61に、前面を壁6の面とほぼ同じにして取り付けられている。75は引出し式調味料容器収納具7の中に収納されている調味料容器である。

50 【0011】又、開放型調味料容器収納具8は、図4に

3

示すように、前面が開口している箱形をしていて、この下面に調味料容器等を立てて収納するものである。そして、この開放型調味料容器収納具8は、図1および図5に示すように、壁6に設けられた穴62に、前面を壁6の面とほぼ同じにして取り付けられている。8は開放型の調味料容器収納具8の中に収納されている調味料容器である。尚、この開放型の調味料容器収納具8の開口部にはスライド式または開き戸等の蓋を設けていると、埃等がこの中に入らないので好ましい。

【0012】次に、この調味料容器収納具の使用法について説明する。厨房家具Aを使用して調理する。調理するときに、調味料容器収納具7、8は、前面が壁面とほぼ同じ平面上に取り付けられているから、調理しているときには、通常、手や調理器具が調味料容器収納具7、8壁面まで届かない。従って、調味料容器収納具7、8に手や調理器具が触れて調味料容器が落下することがない。

【0013】又、この調味料容器収納具7、8は壁に設けられた穴に取り付けられているから、強固に固定され、誤って調味料容器収納具7、8に手や調理器具が触れても振動することがなく、従って、この調味料容器収納具7、8の中の調味料容器75、85が倒れたり落下することがない。調味料を使用するときには、手を伸ばして調味料容器収納具7、8から調味料容器75、85を取り出して使用し、使用が終わると、調味料容器収納具7、8に収納する。このように、厨房家具の上方の壁6に穴61、62が設けられ、この穴61、62に調味料容器収納具7、8が取り付けられているから、一寸手を伸ばすだけで調味料容器収納具7、8から調味料容器75、85を取り出すことができるので便利である。

【0014】

【発明の効果】本発明調味料容器収納具の取付構造は、厨房家具の上方の壁に穴が設けられ、この穴に調味料容器収納具が取り付けられているから、一寸手を伸ばすだけで調味料容器収納具から調味料容器を取り出すことができるので便利である。又、この調味料容器収納具は、前面が壁面とほぼ同じ平面上に取り付けられているか

4

ら、調理しているときに、通常、手や調理器具が壁面まで届くことがない。従って、調味料容器収納具に手や調理器具が触れて調味料容器が落下することがないので安心して調理できる。

【0015】又、この調味料容器収納具は壁に設けられた穴に取り付けられているから、強固に固定され、誤って調味料容器収納具に手が触れても振動することがなく、従って、この調味料容器収納具の中の調味料容器が倒れたり落下することがないので安心である。又、調理する台所は一般に狭いが、このように従来使用していない壁面が有効利用できるので、狭い台所が使用し易くなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示すもので、調味料容器収納具を取り付けた台所の壁の正面図である。

【図2】引出し式調味料容器収納具の斜視図である。

【図3】引出し式調味料容器収納具を壁に取り付けた状態を示す斜視図である。

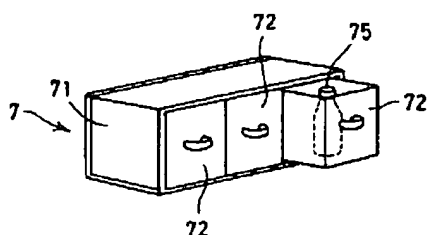
【図4】立て型調味料容器収納具の斜視図である。

【図5】立て型調味料容器収納具を壁に取り付けた状態を示す斜視図である。

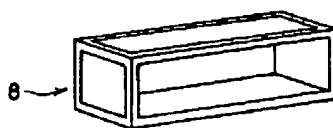
【符号の説明】

A	厨房家具
1	流し台
11	水栓
2	調理台
3	ガスレンジ台
31	ガスレンジ
4	収納部
5	吊り戸棚
6	壁
7	引出し式調味料容器収納具
71	枠
72	引出し
75	調味料容器
8	開放型調味料容器収納具
85	調味料容器

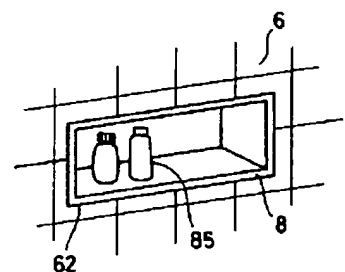
【図2】



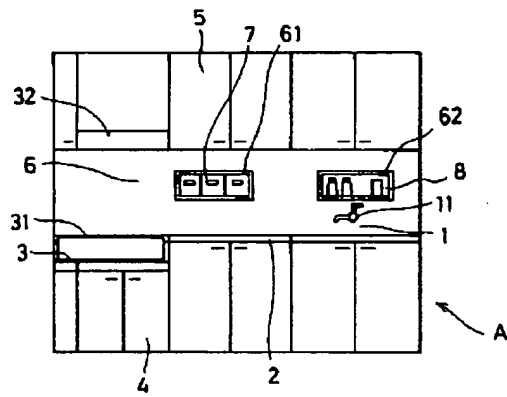
【図4】



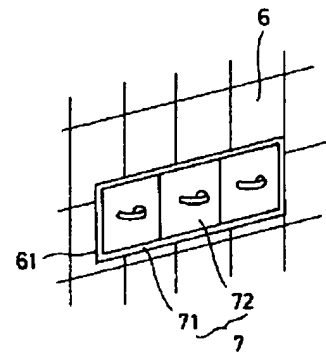
【図5】



【図1】



【図3】



PAT-NO: JP408140766A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08140766 A

TITLE: MOUNTING STRUCTURE FOR CONDIMENT CONTAINER
HOUSING UTENSIL

PUBN-DATE: June 4, 1996

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
MAEDA, MASAYO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
SEKISUI CHEM CO LTD N/A

APPL-NO: JP06286408

APPL-DATE: November 21, 1994

INT-CL (IPC): A47B077/16

ABSTRACT:

PURPOSE: To make the hand and a cooking utensil hard to touch a container housing utensil, and also, to easily take out a condiment housing container by providing a hole on a wall on the upper side of kitchen furniture and mounting a condiment container housing utensil so that its front can nearly be flush with the wall.

CONSTITUTION: The holes 61, 62 are opened on the wall 6 of a kitchen between the kitchen furniture A and a hanging cabinet 5, and a drawer type condiment container housing utensil 7 and an open type condiment housing utensil 8 are mounted on them. The drawer type condiment container housing utensil 7 and the

open type condiment housing utensil 8 are mounted so that their front faces can nearly be flush with the face of the wall 6. When cooking is performed, the hand and the cooking utensil can be prevented from touching the condiment container housing utensils 7, 8 ordinarily since their front faces are set nearly flush with a wall face. Therefore, the condiment container can be prevented from dropping even when the hand and the cooking utensil touch the condiment container. Also, since they are fixed solidly, they can be prevented from vibrating even when the hand touches them accidentally.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO